

テーマ：『 環境教育プログラムの効果的活用 』

宇都宮大学教育学部附属中学校

Tel. 028-622-2555

担当者： 吉田 茂興



■実践内容：

宇都宮大学教育学部附属中学校は、市街地にあり、そばを人工的に管理された川が流れるなどして、自然が豊富とはいえない環境にある。また、環境問題に関する意識は高いものの、実際にどの程度の環境問題が身近に存在しているかは実感出来ないのが現状である。そこで、教師が(財)河川環境管理財団が普及に努めているプロジェクト WET の講習会に参加し、そのアクティビティを取り入れたり、実際に学校の周辺の環境を実験で調べたりしながら、自分の普段過ごしている場所の環境問題について実感を伴う授業を目指した。

実験では、市内を流れる鬼怒川の COD や pH、濁りを調べる水質実験を、学校のすぐ近くを流れる新川の数値と比較しながら水環境学習をおこない、結果を分析した。また、宇都宮市松原地区、大学のある峰地区の空気の汚染具合を測定し、考察した。

■実践成果：

まず生徒たちは、プロジェクト WET のアクティビティから、都市の開発により水がどのように汚染されていくのかというイメージを持つことが出来た。もし工事のために機械の油が 10 リットル川に流れ込んだらどうなるのかについて、またそれを元に戻すためにはどうすればよいのかについて、多くの議論がなされた。

学校のそばの新川の汚染具合は、多くの生徒が予想していた値よりは汚染度が低かった。このことから様々な感想が引き出された。また、実験方法の問題点や、定点観測の必要性などが議論された。大気汚染の結果は、松原地区よりも峰地区の方が汚染度がやや高かった。その原因を予想するのは難しいが、データの数を増やすにはどうすればよいかなど、ここでも多くの意見交換がなされた。

総じて、実験を行うことで、多くの言語活動がなされ、環境に関する意識も高まったことは間違いないと思われる。

■実践ポイント：

身近な課題として取り組むことが出来るようにするためにも、環境学習に取り組む前の意識付けが非常に大切になる。意識付けという意味では、プロジェクト WET のアクティビティは中学生においても有効である。もちろん、小学生にも大変有効であると思われるので、今後も小学校との連携などを通じて実践してみたいと思っている。